

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 17 日作成)

委員会名	建築物社会ストック化小委員会	主 査 名：木俣 信行
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：仙田 満
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	わが国における建築物が、社会的共通資本として永続的に価値を維持し、国民生活を一定水準以上のレベルで支えることが出来るようになるためには、如何なる対策が必要かを検討し、2003 年 5 月の学会提言をフォローして、社会に具体的行動を促す基とする。	
委員構成 (委員名(所属))	木俣信行(鳥取環境大学)、有川智(国土技術政策総合研究所)、家木成夫(上武大学)、伊藤裕久(東京理科大学)、稲田泰夫(清水建設)、稲垣道子(フェリックス)、岩井光男(三菱地所)、北村春幸(東京理科大学)、小林重敬(横浜国立大学)、椎名一博(三井不動産)、周藤利一(水資源開発公団)、中村勉(ものづくり大学)、橋本哲実(政策投資銀行)、本田広昭(オフィスビル総合研究所)、門内輝行(早稲田大学)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会 8 回 (7/28:9、8/29:12、10/6:9、11/10:7、12/10:9、2004/1/19:10、2/23:8、3/22)、勉強会 2 回開催 (2004/1/19、2/22)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物が良好な社会ストックとなるための条件について、様々な角度から検討を加えた。 ・ その結果、まだ結論を得るには至っていないが、概ね次のような要件の充足が条件となるであろうことが浮かび上がってきている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物としては空間を構築する基本構造の質的充実 ・ 立地条件から求められる建築空間の質と量の確保 ・ 建築物の地域景観対応状況 ・ 建築物による地域共有(コモン)空間の形成状況 ・ これらの条件を満たした建築物を、社会全体として蓄積して行くためには、建築物単体の形成条件を整えることのみならず、エリアマネジメントと言った地域の環境を住民の合意の基で進めるための仕組み、さらに優良なストック蓄積を促進する土地利用のための制度など社会システムの整備が必要との認識を得るに至った。
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期の目標としては、2003 年 5 月の学会提言を補完するパンフレットの作成を挙げていたが、検討の結果、提言を補完する報告書、あるいは出版物を整えることの方が合目的的であるという判断に至った。 ・ 従って、目標を出版物の出版準備に変更する。
その他評価すべき事項	